

2021年1月1日：代表代行挨拶

皆さんと共に明るい年にしましょう！

社交辞令ではありませんが、「コロナ禍蔓延」の中で、やっとの思いで迎えた感がある年明けで、「明けましておめでとうございます」と、申し上げづらい環境であることは間違いありません。

いつもでしたら、「おめでたい言葉」で、新しい年の元日を飾るのですが、冒頭から、新春には、いかにも不似合いな、奥歯にものが挟まったような言い方で、ご挨拶させていただきます。

私のような「いい加減な人間」が、昨年11月末、思いもよらぬことが起こり、11年間余、「湘現会世話人」として、微力ながら「下働き」をさせて頂くも、2度目の「代表代行」を仰せつかるとは、「青天の霹靂」と言っても過言ではありませんでした。

思い起こすに、2008年10月、リタイアして2年後に「湘現会」に入会するも、1964年の「東京オリンピック」の年に、社会人の一步を踏み出し、最初にお仕えした上司が、湘現会の中でも多岐にわたり活動された「故・澤田耕輔さん」でした。

「さらなる一步」の追悼文でも記載をさせていただきましたが、当時は「新進気鋭な課長」として、「仕事人間」がピッタリするが如く、辣腕をふるっておられました

トップから、新しい企画を任せられ、人材が必要なこともあったのですが、ご本人からは、関係部署に、「堀河だけは絶対いらぬ」との強い要請があるにもかかわらず、「ご縁」があり、部下として、昼となく、夜となく共に50年、時間軸が全く関係なく、教えを頂きました。

世話人に登用されてからは、「澤田大先輩の顔を潰してはいけない」との一心で、「遇直」にコツコツこなすも、「流石に澤田さんの指導の仕方は素晴らしいですね」と周りから言われ、頭の片隅から離れませんでした。

しかしながら、今回の「代表代行就任」は、齢81歳を迎えた我が身には、流石に荷が重く、今年で「最後のご奉公」と、これまで、何とか頑張ってきたつもりですが、3月末までの任期を全うし、「コロナ禍」の後を見据えて、「次代の湘現会」を担われる後任の方に託す積りです。

「温もりのある場を醸成」するのが、「入会以来の夢」でもあり、令和2年度も、皆さんで「お会いできる場」を、可能な限り作りたいと、細心の

注意を払いつつ、催行に向けて腐心して参りました。

お陰様で、メインの「定例会」については、力及ばずの感が否めませんが、「分科会活動には注力」「広報にはバリエーションを持たせる」ことを念頭に、ご不満な点が多々あることは承知しつつ、曲がりなりに、実施できましたことは、偏に会員さんのサポートの賜物と脳裏に深く刻み込まれております。

一昨年5月には、「湘現会の25周年記念行事」が、「鎌倉芸術館」で開催され、伝統の重みを背負いながら、滞りなく終えることが出来、令和2年度は、「新しい湘現会」を目指して、「世話人会」としても、先人のご努力を無駄にはしないように伝承すべく、心新たに誓い合いました。

「予期せぬことが茶飯事」に、いつの間にか「常套語」となり、年柄年中、「なんだ、かんだ」と襲い掛かりながら、こんな筈がないと思いつつ、会員さんの「ご納得」が得るまでには、相当の時間を擁することは、臆気なりには自覚は出来得るも、諦めずに立ち向かわねばなりません。

この厳しい中でも、令和2年度の、「年会費ご納入」には格別のご配慮も頂き、凄く有難いことと、素直に受け止めると同時に、更には「頑張れ！」とのエールも送って頂くなど感謝の言葉以外にありません。

会員さんのご厚情に甘えることなく、誠に予測し難い令和3年へのスタートにあたり、「世話人会のメンバー」も、「相互の連携」をいっそう深めながら取り組みたいと考えております。

どうぞ、皆さんの「熱い思い入れ！」を、今年もよろしくお願い致しますと同時に、「こんなことをやってみたらどうか」など、忌憚のないご意見をどんどんお寄せいただき、共に行動を起こしたく、重ねてお願い申し上げます。

令和3年 元旦

代表代行 堀河 勲

